

作業フローチャート

start

①作業対象のサンプルと
②レル・ラレルが後続する動詞の元の結合価を比較する。

※思いのほか格要素が明示されていないサンプルが多いので、補って比較してください。
※格要素が格助詞以外（係助詞や副助詞や被連体修飾）の場合に、ガ格なのかラ格なのか迷うことがあります。その際はガ格に倒して考えてください。

※但し、前述の通り、残念ながら、（般）に限らずほとんど明示されません。
※小説では、登場人物の名前など、三人称が（自）になることがあります。

②の動作主が何か確認する。
（自）動作主＝発話者。
（他）動作主＝発話者以外。特定可能。
（般）動作主＝世論や一般的にという場合（わざわざ表すことはほとんどない）。

※可能動詞や「～ことができる」に言い換えられるはず。
※一段動詞に後続するラレルに可能が多く、特に「得る」「受ける」など取得の意味の動詞や「いる」はほぼ可能と考えて良さそう。
※反対にサ変動詞にはほとんど見られません。
※否定が続くことも多いようです。ただ、あくまで傾向としかいえませんが。

(I)

態の変換あり

Yes

No

(II)

動作主が発話者(自)

Yes

No

(a)

可能

(III)

動作主は発話者以外(他)であり
発話者から動作主に対する敬意を感じる。

Yes

No

(b)

尊敬

(IV)

可能動詞や「～ことができる」に
言い換えられる

Yes

No

(d)

(c)

可能

※可能動詞や「～ことができる」に言い換えられるはず。
※一段動詞に後続するラレルに可能が多く、特に「得る」「受ける」など取得の意味の動詞や「いる」はほぼ可能と考えて良さそう。
※反対にサ変動詞にはほとんど見られません。
※否定が続くことも多いようです。ただ、あくまで傾向としかいえませんが。

(V)

動作主が発話者(自)であり
自然にそうなる意識が感じられる。

Yes

No

(e)

自発

※基本的に肯定の形になります。
※現代では、心情の表現に限られそう。

(VI)

動作主が発話者の心を動かすもの(他)であり
自然にそうなる意識が感じられる。

Yes

No

(f)

自発

※「～に惹かれる」「～に魅せられる」など。
多くの動作主が二格で明示します。

(VII)

論文や白書、新聞の記事などに定着している文体で、
発話者だけの意見ではなく、
専門家や世論の見方として客観的な内容である
というニュアンスを持たせる表現である。

Yes

(g)

受身(客観的)

※「～と言われる」「～と考えられる」など。
動作主を曖昧にするため明示することはほとんどなく、
主たる内容であるト格要素が長いと、
態の変換を意識しづらいかもしれません。
※別紙「受身(客観的)判定基準」を参照ください。

(h)

受身